

諦めない

7L2WVR 久保木尊史

山は好きだ。

見るのも登るのも。

登る、、、と言っても大した登山じゃない。頂上近くまで道が通じていて、駐車場からちょっとした登りで頂上まで行ける、そんな山ばかりを登っている。

でも過去には麓から登った山もいくつかある。

そのひとつ、

2014年7月19日、あれは確か、、、甲武信ヶ岳（こぶしがたけ、通称こぶし）だったな。



甲武信ヶ岳は秩父多摩甲斐国立公園の盟主。
山梨、埼玉、長野の県境にある、百名山のひとつ。

国道140号沿いの「道の駅みとみ」に車を止め、
笛吹川沿いに西沢溪谷に向かって歩く。
かなり歩いて、「疲れたな～」と思ったころ、
甲武信ヶ岳登山道の登り口（標高1160m）に着く。

登山道は主に三つあり、ひとつは長野県側の毛木平（もうきだいら）から登る初心者向けコース。
山梨県側からのコースは二つ。

西沢溪谷の入口付近からヌク沢を見上げ、沢の左（右岸）を登るコースが「徳ちゃん新道」、右（左岸）を登るのが「近松新道」だ。どちらも険しい。

（沢の右岸左岸は、沢の上流から下流を眺めて、沢の右手が右岸、左手が左岸。下から沢を見上げる場合は、沢の右手が左岸、左手が右岸となる）

僕は徳ちゃん新道のコース（標高差1315m）を選んだ。

登山道入り口からヌク沢右岸の尾根をほとんどまっすぐに登っていく。

甲武信ヶ岳、山梨県側の尾根はどれも急峻。すぐに顎が上がってきた。

登っても登っても果てしない。前半は山ツツジかな？シャクナゲだそう。緑の中を登っていく。所々緑のトンネルになっていて、数十メートル急登の後に緩斜面になりまたすぐ急登、これを延々と繰り返す。息は荒く胸が苦しい。汗が滝のように流れる。

「なんでこんな苦しい山に来ちゃったんだろう」、「こんな山に来なければよかった」

そんな事を思いながら登っていく。

そのうち、「もういやだ、やめて引き返そう」と思い始める。

「この急登を登って、あそこまで行ったら引き返そう」そんなことを考えながら急登を登り、「あそこ」まで来たら、「もう少し登ろうかな、次はあそこまで行ったら引き返そう」、延々とその繰り返し。

突然あたりの様相が変わった。

シャクナゲの急登と緩斜面は終わり、長いガレ場になる。斜度はキツくそのままずっと登り。登っていると後ろからおじさんが登ってきて僕を追い越した。その後を必死で追いかける。

おじさんはこの急登をかなりのハイペースでも息も乱さず、平気な顔で登っていく。

どうなってんだ？このおじさん。

かなりの距離をゼイゼイ言いながら付いていったが、もう限界。おじさんに別れを告げ、自分のペースに戻す。



数メートル登っては立ち止まり、また数メートル登っては休む、これの繰り返し。

次第に自分の中では、「ここまで来たのだから、もう少し登ろう」と思うようになった。

だが依然「もう少し登ったら引き返そう」という気持ちも大きい。

左を見ると、隣の尾根が見える。時々その尾根を見て、高度が上がってきたのを確認する。だが、まだまだ上は遠い。

写真は長いガレ場の登り

息絶え絶えに長いガレ場を過ぎ、また急登と緩斜面を繰り返すようになる。

すると下から男性と女性の登山者の声が聞こえてきた。

「ヤバい、追いつかれる」

そう僕の中で声がした。

それからは、追いつかれないように必死で登る。

登っては小休止、また登っては小休止。汗だくでゼイゼイ言いながら必死で登る。

後ろの音が近づいてくる。ザックを背負いながら逃げるように必死で走る。

また突然、周りの様相が変わった。

急登から平らな林の中の尾根道となり、少しの歩きで奥秩父主脈縦走路に出た。

奥秩父主脈縦走路は、東は奥多摩駅から西は瑞牆山（みずがきやま）登山口の瑞牆山荘まで続く、全長 70km を越える長大な縦走路だ。

今この分岐点、標高は 2440 m。

「やっとここまで来た！ 甲武信（こぶし）はもうすぐそこだ！」

元気が出た。

主脈縦走路を西に、まず木賊山（とくさやま）2468 mを越える。

木賊山を越え、鞍部のザレ場を下り、登り返すと甲武信小屋（こぶしごや）に到着。

ここで休憩。木製のテーブルとベンチにザックを下ろし、疲れを癒す。

20 分ほど休憩して、さあ、頂上まで 20 分、最後の登りだ。

休んだせいか、気持ちの違いか、20 分の登りが短く感じた。

ついに、ついに、日本百名山のひとつ、標高 2475 m、甲武信ヶ岳の頂上に立った。

コースタイム 5 時間 30 分のところ、3 時間 50 分で着いた。

他の登山者と和気あいあい話しながら、しばし頂上からの景色を満喫する。

この景色は何ものにも代えがたい。

帰りに甲武信小屋で、荒川源流から汲んだ水を飲む。

「うまい！」

こんなうまい水があるのか！

ペットボトル1本に100円で水を汲める。2本（1リットル）汲み、ザックに入れる。

下山は徳ちゃん新道の途中から近松新道で帰ろう。

帰りは下りだから2時間以内で下れるかな。

そんなことを思いながら徳ちゃん新道を下る。途中で近松新道の分岐を左に、近松新道に入る。

こちらもうらい急な下りで、ヤバイ所があちこち。こりゃ徳ちゃん新道よりヤバイかな。

沢渡りの場所もあり、悪天候では沢を渡れなくなるな。まあ、徳ちゃん新道も雨なら登山道が川になるから使えないだろう。

結局、登山口に下りてくるまで3時間以上かかり、想像以上の酷道だった。

そこから道の駅みとみまで、舗装路を延々と歩く。

7月下旬の暑さの中、これには参った。

道の駅みとみに着いたときはバテバテで、まるでゾンビの様な歩き方だったろう。

車にザックを下ろし、道の駅に立ち寄る。

よく冷えた桃が売っていた。ひとつ買って、その冷たくて美味しいこと！

疲れた体に染み込んでいく。

これは一生忘れられない味になった。

ジュースとアイスを買って、帰途に着いた。

甲武信ヶ岳に登った感想は、

第一に、

もう絶対、二度と来ない！

こんな苦しい登山はもうご免だ。

もしまたこの山に登るとして、その時は毛木平からのコースにしよう。

第二に、

登ってよかった！

途中で諦めなかったから、頂上からの景色と美味しい水に出会えた。

自分にとって苦しい経験と、それに勝って登った達成感、自分の心の勲章になった。

諦めなくて良かった。

諦めたら頂上がどんな所か、その景色、甲武信小屋での思い出、達成感、

それら全てが知らないままで終わっていた。

もちろん、諦めて下山する勇気も必要。

以前、北アルプスの餓鬼岳（2647m）に行った時は、午前3時から歩き始め、昼12時半の段階で頂上まであと1時間。明日は仕事なので、今日中に帰宅しなければならず、また、財布の中には500円玉ひとつだけ。山小屋にも泊まれない。

もうタイムリミット。下山を決めた。

それも良い経験になった。

要は、自分で納得して決め、自己責任で、絶対に遭難など迷惑をかけないようにすること。

いまは膝を痛めたので、本格的な登山は出来なくなった。
近場のちょっとした山にハイキングで行く程度だ。
ハンディ機を持って、山頂からローカルコンテストにちょっとだけ参加してみたり。
しかし、今も、次はどの山に登ろうかな、と考えちゃったりする。
車で頂上直下までスイスイ行ける山。
それでも今までの経験は大いに役立つ。

なんでもチャレンジする時は色々な障害が立ちはだかったりする。
諦めるかどうかは全て自分にかかっている。
現状をよく鑑み、引くところは潔く引くことが肝心だ。
だが、時には壁を乗り越え、諦めない。
その先にきっと見えてくるだろう景色を見たいと思う。

7L2WVR 久保木尊史